

産業厚生常任委員会所管事務調査報告書

第1 調査事項

介護保険第5期改定に向けて

第2 調査期日及び場所

平成23年10月26日 由仁町

平成23年10月27日 壮瞥町

平成23年11月15日 委員会室

第3 参加者

委員長 加藤 宏一

副委員長 中村 貢

委員 清水 秀雄 大西 米明 出村 寛

議長 加納 三司

事務局 議会事務局長 植田 廣幸

第4 調査の経過と概要

平成12年度から介護保険法が施行され、3年毎に制度改正が行われ第4期介護保険事業計画(平成21年度から平成23年度)が最終年となり、道内の自治体で介護保険料の低額(由仁町・月額3,000円)或いは高額(壮瞥町・月額5,300円)を設定している両町の「住民の意向」、「介護予防事業」、「介護サービス事業」、「地域支援事業」、「在宅支援事業」などの事業内容や支援状況を調査した。

平成24年度からスタートする、第5期介護保険事業計画の策定及び地域支援事業の見直しに伴い、「介護保険第5期改定に向けて」を調査事項とし、各種事業の利用状況や課題を探るため、由仁町及び壮瞥町に赴き所管事務調査を実施することとした。

① 介護保険料額の推移

(単位：月額、円)

	全道平均	士幌町	由仁町	壮瞥町
第1期保険料額 (H12～H14)	3,111	3,360	3,300	4,417
第2期保険料額 (H15～H17)	3,514	3,600	3,600	4,183
第3期保険料額 (H18～H20)	3,910	3,800	3,200	5,333
第4期保険料額 (H21～H23)	3,984	4,000	3,000	5,300

② 人口・要介護認定者数等の比較

(単位：人)

	士幌町	由仁町	壮瞥町
平成22年3月末人口	6,611	6,123	2,884
65歳以上の人口 (H23年8月末)	1,718	2,038	969
要介護認定者数 (H23年8月末)	331	323	149

【由仁町の概要】

由仁町は札幌市を始め、岩見沢市、千歳市の中心都市と隣接し基幹産業は農業を中心とした田園地帯で、人口は6千人を割り高齢化率も年々上昇傾向にある。

平成3年から平成13年度にかけ行政施設や由仁駅周辺整備事業などの大型公共事業投資で百数十億円を投じ各種の事業を行った結果、国からの地方交付税が減額となり、財政が逼迫し同時期に「財政健全化法」が施行され、平成20年度決算では実質公債比率が26.4%に上昇し「早期健全化団体」となり、財政健全化計画を策定し行財政改革に努めた結果、平成22年度に同計画を2年前倒しで脱却した。

(1) 第4期介護保険事業の期間中、本町と由仁町のサービス種別を比較は次の表のとおりとなっている。

① 町内のサービス提供事業所数 (単位：人)

サービス種別	士幌町				由仁町			
	平成20年 10月1日時点		平成23年 10月1日時点		平成20年 10月1日時点		平成23年 10月1日時点	
	定員	箇所 数	定員	箇所 数	定員	箇所 数	定員	箇所 数
(介護予防)訪問介護		1		1		1		1
(介護予防)訪問リハビリテーション		1		1				
(介護予防)訪問看護		1		1		1		1
(介護予防)通所介護		1		1		1		1
(介護予防)短期入所	10	1	10	1	10	1	10	1
(介護予防)グループホーム	9	1	15	2	18	2	18	2
居宅介護支援		2		2		1		1
特別養護老人ホーム	107	1	107	1	20	1	90	2
地域包括支援センター	平成18年4月1日開設				平成18年4月1日開設			

由仁町は訪問リハビリテーションの事業所がなく、その他のサービスにおいては、大きな差がないが、異なるサービス種別は、介護老人福祉施設（特養ホーム等）において本町の入所の定員が107名に対し、由仁町は第4期の後半（平成23年4月）に特養ホーム70床を新たに建設し合計で90床となっている。

② 65歳以上の人口推移 (単位：人)

区 分	士幌町			由仁町		
	H21年度	H22年度	H23年	H21年度	H22年度	H23年
65歳以上人口	1,713	1,710	1,718	2,063	2,041	2,038
前期高齢者	750	708	718	979	931	920
後期高齢者	963	1,002	1,000	1,084	1,110	1,118

総人口を比較すると由仁町の方が少ないが、65歳以上の人口比では平成23年8月末現在で320人と多く、前期及び後期高齢者ともに人数が多く高齢化が進んでいる。

③ 介護施設のサービス利用者数

(単位：人)

区 分	士幌町			由仁町		
	H21年度	H22年度	H23年	H21年度	H22年度	H23年
介護老人福祉施設	76	78	74	17	15	45
介護老人保健施設	10	11	16	14	16	11
介護療養型医療施設	1	1	1	7	5	5
合 計	87	90	91	38	36	61

両町を比較すると、平成 23 年の介護老人福祉施設利用者数は本町が 74 人に対し、由仁町は 45 人と大差であり、合計のサービス利用者数も 30 人が介護保険事業施設での提供を受けたことにより、介護保険料の負担割合が増加する要因となっている。

④ 要介護認定者数の推移

(単位：人)

区 分	士幌町			由仁町		
	H21年度	H22年度	H23年	H21年度	H22年度	H23年
要支援 1	24	28	21	45	42	45
要支援 2	37	44	51	39	32	30
要介護 1	65	66	62	52	71	67
要介護 2	50	61	63	58	57	52
要介護 3	39	46	45	44	38	40
要介護 4	49	47	53	37	45	50
要介護 5	26	30	36	39	32	39
合 計	290	322	331	314	317	323

両町の介護度別認定者数を比較すると大差はないが、合計人数の認定者数は本町が 8 人多く、各種の介護サービス事業の利用割合も比例して増加傾向にある。

⑤ 介護給付費等の実績額

(単位：千円)

区 分	士幌町		由仁町		H22年度由仁町との比較
	H21年度	H22年度	H21年度	H22年度	
居宅サービス	111,667	118,425	106,182	114,937	3,488
居宅介護支援	17,328	18,783	15,290	16,929	1,854
地域密着型サービス	21,390	19,671	116,103	113,581	△93,910
介護保険施設サービス	245,086	250,032	132,062	123,854	126,178
給付費計 (A)	395,471	406,911	369,637	369,301	37,610
特定入所者介護 (介護予防) サービス(B)	36,428	37,555	19,952	18,967	18,588
高額介護 (介護予防) サービス(C)	8,325	9,302	10,012	9,847	△545
総給付費 (A+B+C)	440,224	453,768	399,601	398,115	55,653
地域支援事業	10,904	10,907	9,136	8,814	2,093

平成 22 年度実績で介護保険を利用した総給付費は本町が 453, 768 千円に対して、由仁町は 398, 115 千円で介護保険認定者数に対する総給付費の割合は (一人当たり給付費) 本町が約 1, 371 千円に対し由仁町は 1, 233 千円と一人当たり約 138 千円低く、主な要因としては介護福祉施設利用者の割合が低く、町民は健康で暮らしている。

⑥ 所得段階別被保険者数

(単位：人)

区 分	士幌町		由仁町	
	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
第 1 段階被保険者数	2 8	2 8	4 1	4 4
第 2 段階被保険者数	3 4 0	3 4 4	4 1 5	4 2 0
第 3 段階被保険者数	2 1 1	2 2 8	3 7 8	4 0 5
第 4 段階被保険者数 (軽減)	3 4 1	3 3 1	3 2 4	2 9 1
第 4 段階被保険者数	2 0 0	2 0 2	2 9 2	3 0 5
第 5 段階被保険者数	4 3 2	4 2 3	4 7 2	4 5 3
第 6 段階被保険者数	1 6 1	1 5 4	1 4 4	1 2 6
合 計	1, 7 1 3	1, 7 1 0	2, 0 6 6	2, 0 4 4

両町の人口では本町が約 490 人多いが、65 歳以上の人口比としては由仁町が 320 人多く高齢化率が高く、所得段階別被保険者数も連動して本町の 1, 710 人に対し、由仁町は 2, 044 人と 334 人多くなっている。

【壮瞥町の概要】

壮瞥町の人口は本町の半分以下で (2, 884 人) 基幹産業は農業と観光資源が中心となっており、三十数年前に、町の基本計画において過疎地域の活性化と人口の流出を防止するため、昭和 54 年 2 月に社会福祉法人が運営する特別養護老人ホーム「第 2 長日園」(50 床) や昭和 60 年 11 月に医療法人が運営する「そうべつ温泉病院」180 床 (介護療養型病床 120 床・医療療養型病床 60 床) の民間企業を誘致し産業振興を図った。

(1) 第 4 期介護保険事業にかかる各種のサービスは次の表のとおりとなっている。

① 町内のサービス提供事業所数

(単位：人)

サービス種別	士幌町		壮瞥町	
	平成 23 年 10 月 1 日時点		平成 23 年 10 月 1 日時点	
	定 員	箇所数	定 員	箇所数
(介護予防)訪問介護		1		1 (民営、特養併設)
(介護予防)訪問リハビリテーション		1		
(介護予防)訪問看護		1		
(介護予防)通所介護		1		1 (民営、特養併設)
(介護予防)短期入所	10	1	6	1 (民営、特養併設)
(介護予防)グループホーム	15	2		
居宅介護支援		2		
特別養護老人ホーム等	107	1	150	2 (民営、特養、老健)
介護療養型医療施設			120	1 (民営)

本町と壮瞥町を比較すると、壮瞥町は居宅サービス事業として、通所介護 (デイサービス・デイケア) を民営で (社会福祉法人 長日会) 事業を実施、訪問介護 (ホームヘルプ)

も同じく民営で（医療法人 交雄会）行っている。施設サービスは民営の特別養護老人ホーム（社会福祉法人 第2長日園）、介護老人保健施設プライムそうべつ（医療法人 交雄会）の両施設の定員は本町より43人多い150人であり、介護療養型医療施設そうべつ温泉病院も同様に民営で運営し（医療法人 交雄会）120人の病床数となっている。

② 65歳以上の人口推移 (単位：人)

区 分	士幌町			壮瞥町		
	H21年度	H22年度	H23年	H21年度	H22年度	H23年
65歳以上人口	1,713	1,710	1,718	973	966	974
前期高齢者	750	708	718	469	431	427
後期高齢者	963	1,002	1,000	504	535	547

総人口を比較すると本町は壮瞥町に対し約2.3倍であるが、65歳以上の人口では約1.7倍となっている。本町の高齢化率は約26パーセントに対し、壮瞥町においては約33パーセントと本町と比較すると7ポイント高く高齢化が進んでいる。

③ 介護施設の利用者数 (単位：人)

区 分	士幌町			壮瞥町		
	H21年度	H22年度	H23年	H21年度	H22年度	H23年
介護老人福祉施設	76	78	74	26	29	26
介護老人保健施設	10	11	16	11	9	12
介護療養型医療施設	1	1	1	24	23	22
合 計	87	90	91	62	61	60

両町を比較すると、平成23年の65歳以上の介護施設に入所している割合は、本町が約5.3パーセント、壮瞥町は約6.2パーセントと0.9ポイント高いことから介護保険料の負担割合が増大している要因となっている。

④ 要介護認定者数の推移 (単位：人)

区 分	士幌町			壮瞥町		
	H21年度	H22年度	H23年	H21年度	H22年度	H23年
要支援1	24	28	21	12	15	14
要支援2	37	44	51	17	9	14
要介護1	65	66	62	24	29	28
要介護2	50	61	63	28	23	23
要介護3	39	46	45	15	16	19
要介護4	49	47	53	25	35	28
要介護5	26	30	36	23	22	21
合 計	290	322	331	144	149	147

平成23年の介護度別認定者数と65歳以上の人口の割合を比較すると、本町は331人に

対し 1,708 人で 19.4 パーセント、壮瞥町は 147 人に対し 974 人で 15.1 パーセントと本町の要介護認定者割合は 4.3 ポイント上回っており、各種の介護サービス事業の利用割合も比例して増加傾向にある。

⑤ 介護給付費等の実績額

(単位：千円)

区 分	士幌町		壮瞥町		H22 年度壮瞥町との比較
	H21 年度	H22 年度	H21 年度	H22 年度	
居宅サービス	111,667	118,425	48,799	46,304	72,121
居宅介護支援	17,328	18,783	6,813	6,620	12,163
地域密着型サービス	21,390	19,671	898	0	19,671
介護保険施設サービス	245,086	250,032	217,378	215,410	34,622
給付費計 (A)	395,471	406,911	273,258	268,334	138,577
特定入所者介護 (介護予防) サービス(B)	36,428	37,555	17,980	17,956	19,599
高額介護 (介護予防) サービス(C)	8,325	9,302	10,438	10,013	△711
総給付費 (A+B+C)	440,224	453,768	301,676	296,303	157,465
地域支援事業	10,904	10,907	11,121	10,668	239

平成 22 年度実績で介護保険を利用した総給付費は本町が 453,768 千円に対して、壮瞥町は 296,303 千円で介護保険認定者数に対する総給付費の割合は (一人当たり給付費)、本町が約 1,371 千円に対し壮瞥町は 2,016 千円と一人当たり約 645 千円高く、主な要因としては介護福祉施設利用者の割合が高く、多くの町民が各施設サービスを利用している。

⑥ 所得段階別被保険者数

(単位：人)

区 分	士幌町		壮瞥町	
	平成 21 年度	平成 22 年度	平成 21 年度	平成 22 年度
第 1 段階被保険者数	28	28	36	36
第 2 段階被保険者数	340	344	203	200
第 3 段階被保険者数	211	228	173	170
第 4 段階被保険者数 (軽減)	341	331	140	130
第 4 段階被保険者数	200	202	106	116
第 5 段階被保険者数	432	423	221	233
第 6 段階被保険者数	161	154	76	75
合 計	1,713	1,710	955	960

両町の人口を比較すると本町が 3,727 人多いが、被保険者数に対する全人口の割合では、本町が 25.8 パーセントに対し、壮瞥町は 33.2 パーセントと本町が 7.4 ポイント低下している。

第 5 所 感

由仁町は厳しい財政で、介護老人福祉施設、介護老人保健施設など公共福祉施設の建設を行わず、近隣町の介護サービス施設を利用し、町運営の地域密着型サービス施設は指定管理者を導入するなど積極的な財政の健全化を図った。

この様な中、第1期介護保険料は月額3,300円、第2期の保険料が3,600円、第3期保険料が3,200円、第4期計画時には基金の取崩しと利用者の減少により、保険料を3,000円に引き下げた計画を策定した。

特に特定健診の受診率向上のため町民に対して積極的に受診勧奨を行った結果、現時点で52パーセントと高水準で推移し、健康維持と介護予防に努めているところである。

以上のことから、本町と比較すると、人口割合では保険者が多いが、高額な介護給付費の施設利用者割合が低く、低額な水準で保険料が推移し、町民は介護サービス事業の運営に対しては満足している。

平成23年4月新たに民営の特別養護老人ホーム（70床うち町民は30床を利用し介護度1から入所）を建設した。

町内の利用者は徐々に増加傾向にあり、第5期介護保険計画を策定中であるが、試算によれば今後高齢化が進みサービス利用者が増加し、介護保険料の増額が月額1,500円程度増額になると予想される。

壮瞥町は介護保険法制定以前から、町民が「住みなれた町で暮らしたい」との願いや企業誘致など政策として各施設を建設した。

このような条件の下で、施設サービス利用者の割合が非常に多く、軽度の段階から利用傾向にあり、第1期介護保険料は月額4,417円、第2期の保険料が4,183円を設定したが財源不足が生じ、北海道財政安定基金から借入れを行った。

第3期計画以降の策定にあたっては基金の償還金や介護保険制度等の改正により、第3期保険料が5,333円、第4期保険料は5,300円と高額に推移する結果となった。

住み慣れた多くの町民は概ね理解しているが、転入した町民からは高いという声が聞かれる。

このように、両町の施設整備や介護保険料など対照的であったが、特定健診事業の受診率向上と併せて介護予防を日々努力している姿勢が窺えた。

士幌町第5期介護保険事業の計画策定にあたっては、介護保険料の増額が予想されるが、今後有効な介護予防はどの様に進めるか、さらには、保険料の上昇を少しでも抑制するには健康で元気な1号被保険者が大勢いることで、特定健診の受診率向上を図る具体的な対策などの課題を検証し、町民に理解の得られる介護保険料の策定が必要である。

第1 調査事項

町有施設経営等について

第2 調査期日及び場所

平成23年11月15日 委員会室

第3 参加者

委員長 加藤 宏一

副委員長 中村 貢

委員 清水 秀雄 大西 米明 出村 寛

事務局 事務局長 植田 廣幸

第4 調査の経過

本町の町有施設においては、平成18年4月以降、士幌高原「ヌプカの里」及びしほろ温泉「プラザ緑風」を指定管理者制度に基づき、施設の管理委託を導入したが、経済や景気の低迷など諸事情により、宿泊客や日帰りの利用客はここ数年減少傾向である。

また、物産振興公社「道の駅ピア21しほろ」においても、経営状況は厳しく年々悪化傾向である。このため、今後各施設の新たな事業展開や商店街の活性化など効果的な方策を探るため所管事務調査を実施することとした。

なお、各施設に係る利用状況や収支の詳細な実績数値は、毎年第2回定例会の各施設の事業報告、第3回定例会の決算報告等で経営状況を報告済のため省略する。

第5 所感

しほろ温泉「プラザ緑風」においては入湯客数はほぼ横ばいで推移しているが、宿泊及び日帰りの客数は平成19年度以降、年々減少し売上金額も低下している。

士幌高原「ヌプカの里」の利用者数は「十勝シーニックバイウェイ」の指定を受け「シーニックカフェ」を開催し、平成19年度から指定管理者の努力により宿泊、日帰り客数は急激に増加し、特に宿泊者数は増加傾向にあるが、日帰り客数は年々減少傾向となっている。

また、物産振興公社「道の駅ピア21しほろ」においては、ここ数年新商品の販売などで売上高は伸びているが、同時に原材料の仕入れも上昇し利益率の確保が困難な状況にある。

各施設の利用者が減少する中、如何に人を呼び込むかを検討した結果、新たな発想や種々の施策が必要であり、北海道スポーツ観光連絡会議が推進している、修学旅行の受入やスポーツ団体の合宿、大会等の開催により町内複数の運動関連施設の有効活用で「プラザ緑風」、「ヌプカの里」の宿泊者の増加が見込め、併せて経済効果が期待できる。

さらには、スポーツイベントの開催により道東自動車道の開通など、北海道の中心都市である札幌市との移動時間が短縮となり、観戦者や観光客の増加が予想される。

スポーツによる青少年の育成など「スポーツ等合宿」の誘致活動や体制づくりを整備し「地域の活性化」を図ることが肝要であると思われる。

なお、「プラザ緑風」、「道の駅ピア21しほろ」の運営にあたっては積極的な事業展開が望まれるが、当面は経営が改善するまで支援が必要であると思われる。